

# — 委員会記録 —

## ◇ 第一回委員会

大会第二日（一〇月一四日）正午、大会会場別室において、運営委員、編集委員の合同委員会をおこなひ、次の点を確認しました。

### ① 来年度の共通課題について。

一〇月一四日（大会第二日）正午までに事務局に寄せられた三会員からの提案を検討。大会終了時までには寄せられる提案と、大会に欠席した会員からの提案や意見などとともに、次回からの委員会ですらに検討する。

## ◇ 第二回委員会

一一月八日午後四時三〇分から、東京教育大学において、運営委員、編集委員の合同委員会を開催。以下のとおり決定しました。（出席委員・福武直、中野卓、島崎稔、柿崎京一、吉沢四郎、蓮見音彦、安原茂、事務局・民秋言）

① 村落社会研究第八集・村落社会調査研究叢書第三輯の編集に  
USP

年報第八集は総頁数約三〇〇頁（四〇〇字詰原稿用紙七〇〇〜七五〇枚、うち論文六〇〇〜六五〇枚、研究動向一〇〇枚）とする。共同討論の要約（第一八回、一九回大会の二ヶ年分）

は、編集委員会から執筆を依頼する（安原茂会員に依頼、同会員承諾）。研究動向は、A 史学・経済史学 V、A 経済学 V、A 社会学 V、A 民俗学・民族学・社会人類学 V を掲載することとし、執筆は委員会から依頼する（A 史学・経済史学 V は岡光夫、A 社会学 V は吉沢四郎会員にそれぞれ依頼し、両会員より承諾を得ている）。なお、研究動向で対象とする年度は、従来四月から翌年三月までとされていたが、今回より、一月から同年一月までと改め、その間に発表された研究を対象とする。ただし、年報第八集にかぎり、昭和四六年四月から同年一二月までのものとする。

### ② 第二〇回大会共通課題について。

第一九回大会時に会員から寄せられた提案、ならびに第一回委員会の問題となった諸点について討議。それらの内容について簡単にまとめると、

(一) 村落の「歴史的発展」を中心とするもの——村落の歴史的、段階的發展（近世から現代までを含む）

(二) 「現代村落」を中心とするもの——都市化、変革の運動

(三) 村研大会二〇回を記念する意味をも含み、「二〇年の成果」と今後の課題」

の三つに分けることができる。(一)、(二)については、相互に関連させることによって焦点をぼけるのではなからうかと、さらに検討を加え、つぎの(1)としてまとめていく結果となった。

(1) 近代日本社会における村落と都市——近世ないし明治維新

から現代までの各時期の変動、変革の運動を取り扱う。

(2) 前記の(1)、二〇年の成果と課題の方は、二〇回目を迎える大会のテーマとしてはよいが、実際に適当な大会報告者や年報執筆者を得られるかどうか疑問である。

以上の二点について、会員から意見や提案を募り（一九七二年一月二〇日までに事務局必着）、それらを参考にして次回委員会（同年一月下旬開催予定）で、さらに検討する。

③ 村研大会二〇回記念事業について。

(1) 「研究通信」のバックナンバーを揃え（欠号は会員から借りてコピーする）、製本して保存する。会員にはバックナンバーのコピーを実費にて頒布。

(2) 左の事項を特集記事として「通信」に掲載する。

(イ) 年報（時潮社、塙書房刊）掲載論文の目録

(ロ) 村研草創期の記録など諸資料

(ハ) 第一―一九回大会のプログラム、レジュメなど

(ニ) 会員の研究動向（個人研究、グループ研究）

(三) 年報（時潮社刊）覆刻についての提案がなされたが、これについては多くの問題があるため、さらに検討する必要がある、今後の課題とされた。